

## 第5回資料解説講座

### 「桶川市内における近年の発掘調査から」

平成28年11月20日(日)

川田谷生涯学習センター

#### 【発掘調査について】

##### ○文化財とは

- ・わが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなすもの
- ・貴重な国民的財産

##### ○発掘調査の種類

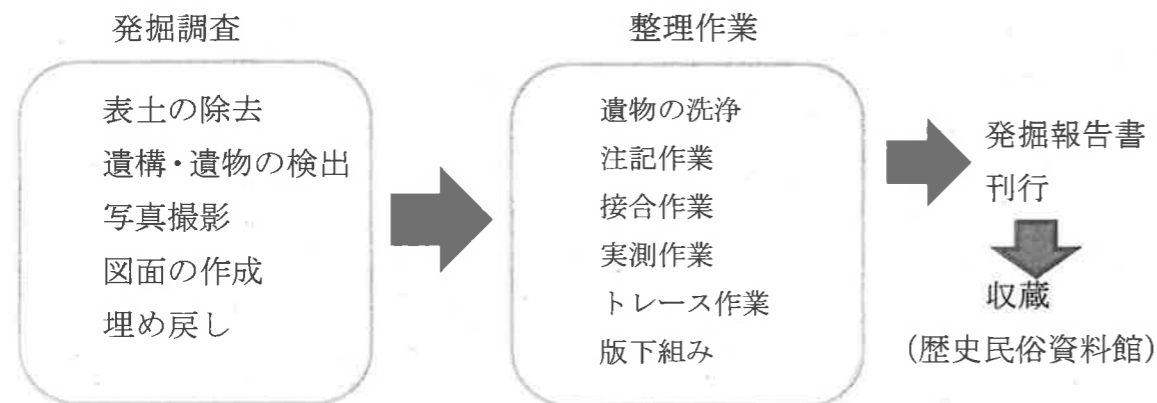
- ・学術研究目的の発掘調査
- ・保存・修復目的の発掘調査
- ・開発等による緊急発掘調査

##### ○発掘調査に至る経緯

建築計画→埋蔵文化財包蔵地の照会→試掘調査→

- ・発掘調査
- ・工事立会
- ・慎重工事

##### ○調査の一連の流れ



#### 平成20年度以降の市内遺跡発掘調査一覧

年度	遺跡名	面積 (㎡)	時代 (主たる時期)	調査原因 /所在地
平成20年度	氷川神社裏古墳 第2次発掘調査	63	古墳時代後期	個人住宅建設 /大字上日出谷
	宮遺跡 第4次発掘調査		古墳時代中期	
平成21年度	箭芳遺跡 第1次発掘調査	60	近世	個人住宅建設 /大字倉田
	ふじま山遺跡 第3次発掘調査		縄文時代中期	
平成22年度	宮遺跡 第5次発掘調査	90	古墳時代中期	個人住宅建設 /大字上日出谷
平成23年度	ふじま山遺跡 第4次発掘調査	4,000	縄文時代中期	宅地造成 /大字坂田
平成24年度	策I遺跡 第1次発掘調査	500	縄文時代後期	区画整理事業 /大字下日出谷
平成25年度	堀ノ内遺跡 第4次発掘調査	3,000	縄文時代中期 弥生時代後期 古墳時代前期	区画整理事業 /大字坂田
	策谷I遺跡 第2次発掘調査		古墳時代後期	
平成26年度	八幡耕地遺跡 第8次発掘調査	110	古墳時代後期	個人住宅建設 /大字川田谷
平成28年度	天王山遺跡 第1次発掘調査	900	縄文時代中期	宅地造成 /大字坂田

##### 図版等出典

- ・桶川市教育委員会『平成23年度 桶川市内遺跡発掘調査報告書』
- ・桶川市教育委員会『平成27年度 桶川市内遺跡発掘調査報告書』
- ・桶川市教育委員会『堀ノ内遺跡 第4次発掘調査報告書』

## 堀ノ内遺跡（第4次発掘調査）

調査期間 平成26年1月14日～平成26年5月13日

所在地 桶川市大字坂田字堀ノ内地内

堀ノ内遺跡は、旧綾瀬川の支流である高野戸川が開削した谷を望む標高20mの台地上に存在している。これまで昭和55年以来3回の発掘調査が行われ、縄文時代早期の炉穴群、縄文時代中期の住居跡6軒、近世中期後半の遺構などが発見されている。今回の調査では縄文時代中期の住居跡があらたに6軒発見されたほか、方形周溝墓と呼ばれる弥生時代後期から古墳時代前期にかけての有力者の墓や、同時期の住居跡8軒が発見された。

### 【縄文時代の堀之内遺跡】

今回の新たに6軒の住居跡が発見されたことで、縄文時代中期の住居跡は12軒となった。これまで発見された住居跡の配置をみると環状をなす集落の形態であることが推測できる。

遺物としては住居跡や土壌などから多くの土器等が出土した。その中でも第8号土壌から出土した最大口径65cm、高さ53cmにおよぶ大型の深鉢や、第5号住居跡から出土した凹石に転用された大型の石棒は、この遺跡を特色づけるものである。特に石棒については、石材の乏しい大宮台地において、どこから石材を入手したのか、また本来儀式に使う祭器である石棒が、どのように木の実を凹みに置いて割る生活道具である凹石に転用されていたのか等、今後の課題となるであろう。

また、今回の調査を通じて、当該地域において谷をはさんで西から天王山遺跡、ふじま山遺跡、堀ノ内遺跡と、縄文時代中期の集落が近接して存在していることも判明した。今後、これら3つの遺跡の関係性について研究をすすめていく必要がある。

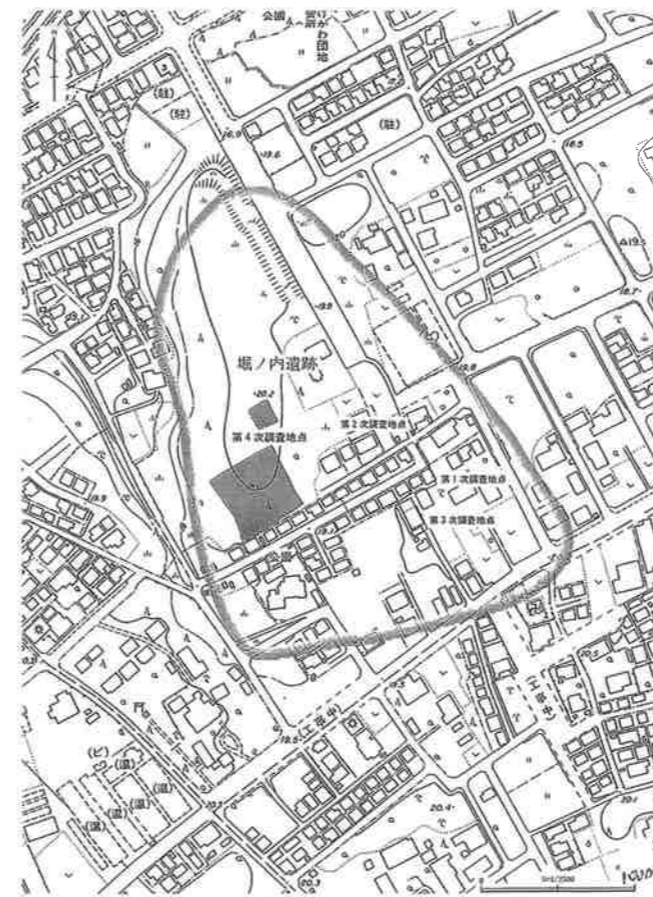
### 【弥生時代後期から古墳時代前期の堀之内遺跡】

方形周溝墓については、これまで主に川田谷をはじめとする市域の西側において確認されていた。市域の東側においては昭和42年に発掘調査が行われた加納入山遺跡以来となる。また、同時期の住居跡についても市域東側において類例の少ない貴重な発見となった。

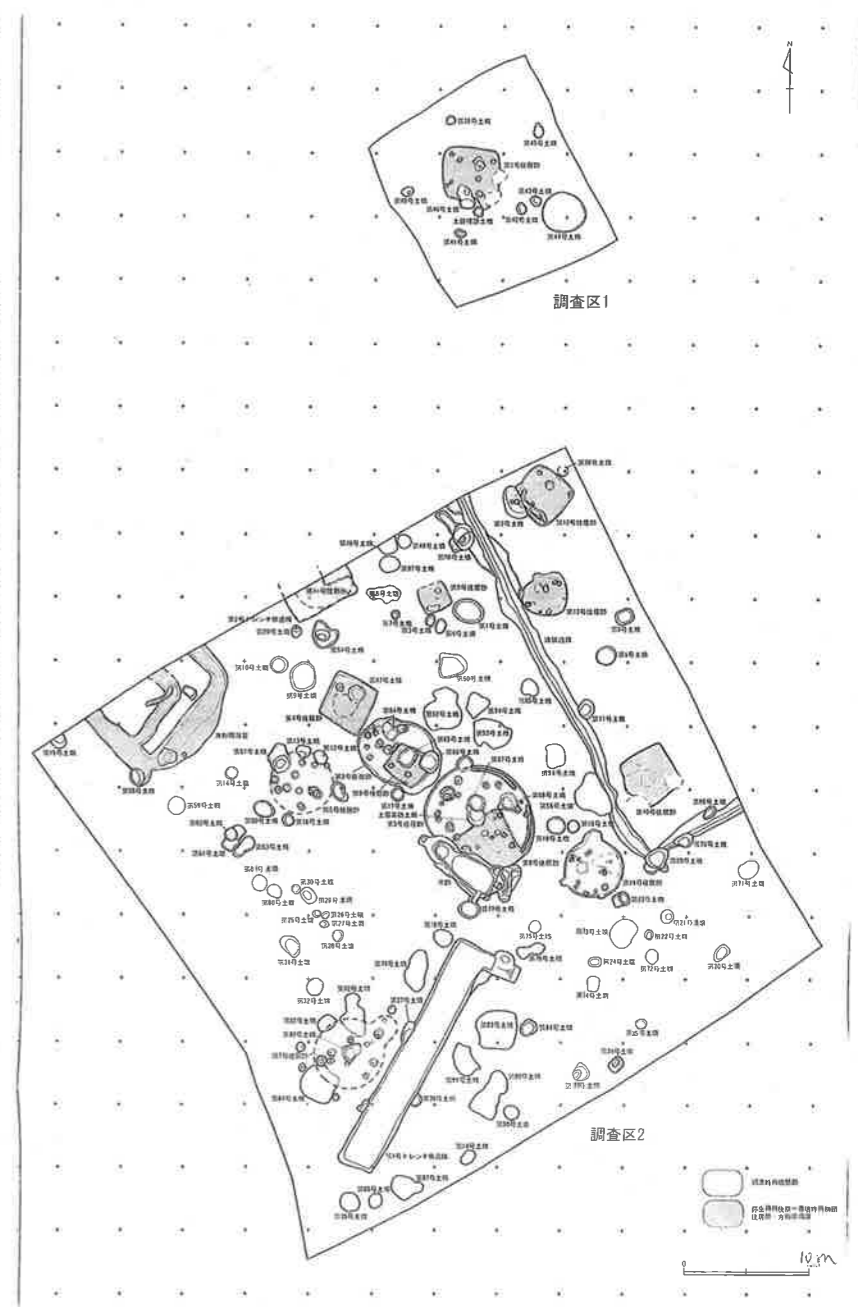
方形周溝墓の南東辺の外溝からは横転した状態でほぼ完形の壺形土器が出土した。底部は11cm幅で打ち欠かかれており、方形周溝墓に供えられた底部穿孔壺である。出土状態から、周溝がある程度埋まった時点で溝に流れ落ちたものと考えられる。人為的な二次移動の無い良好な出土状態であり、貴重な出

土例である。

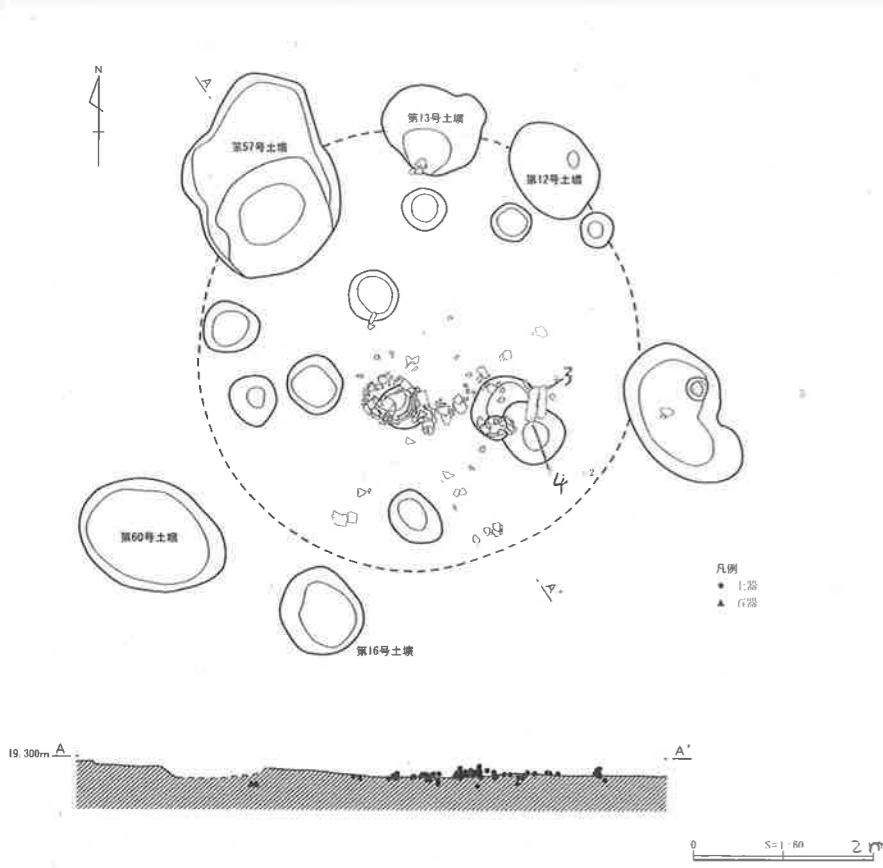
今回の調査で縄文時代と近世の遺跡と考えられていた堀ノ内遺跡が、実はかなり幅広い年代の遺跡を持つ複合的な遺跡であることが判明した。また、方形周溝墓とその時代の集落が市域の東側において確認されたことは、市域の東側に古墳が確認されていないことも含め、当市の歴史を研究する上で貴重な情報と新たな課題をもたらしたといえる。



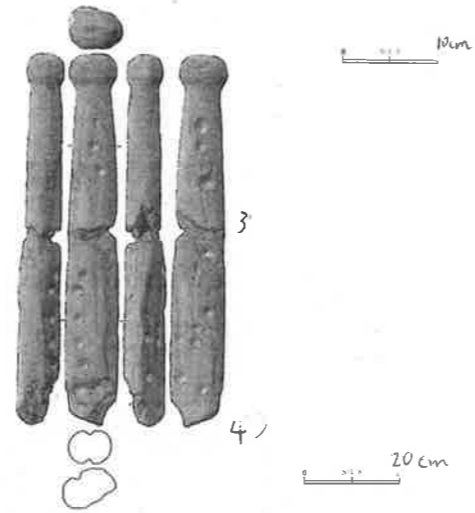
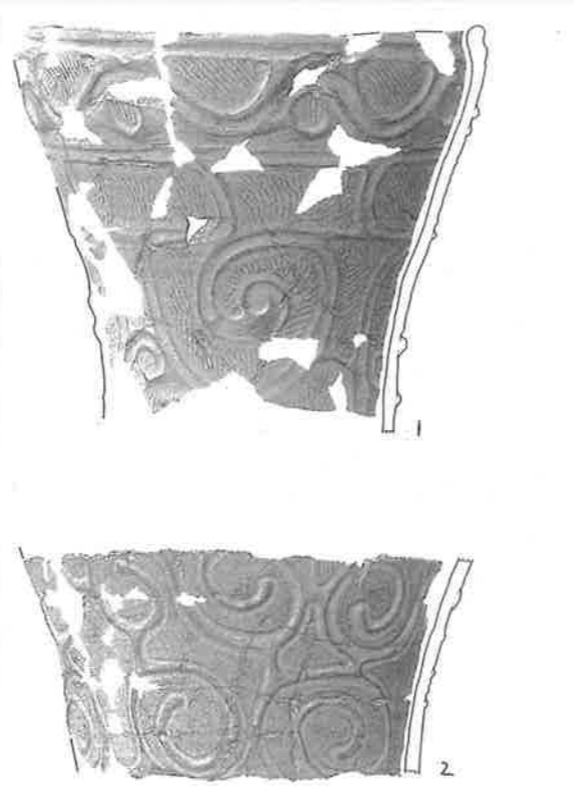
調査区全体



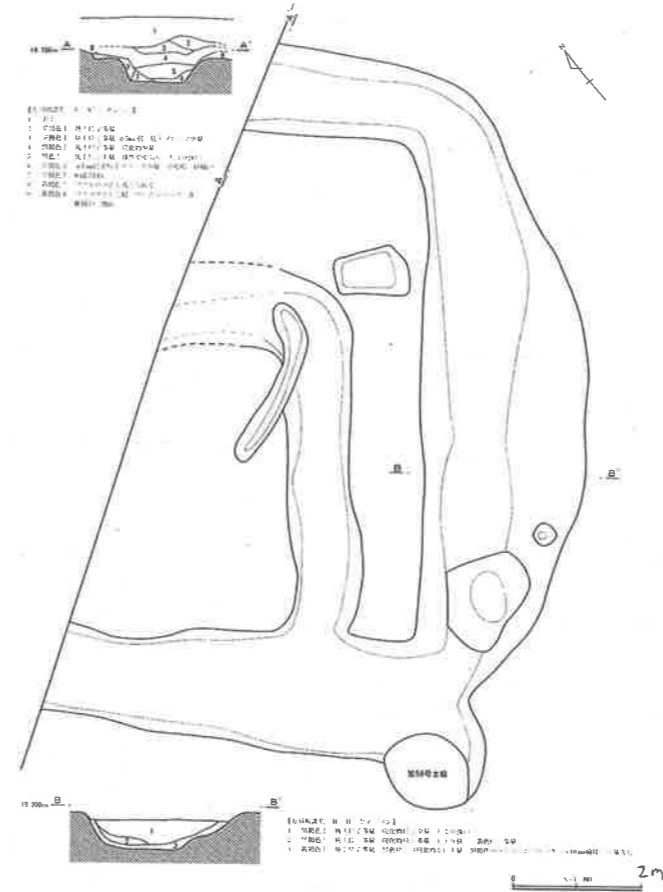
調査地点と周辺の地形



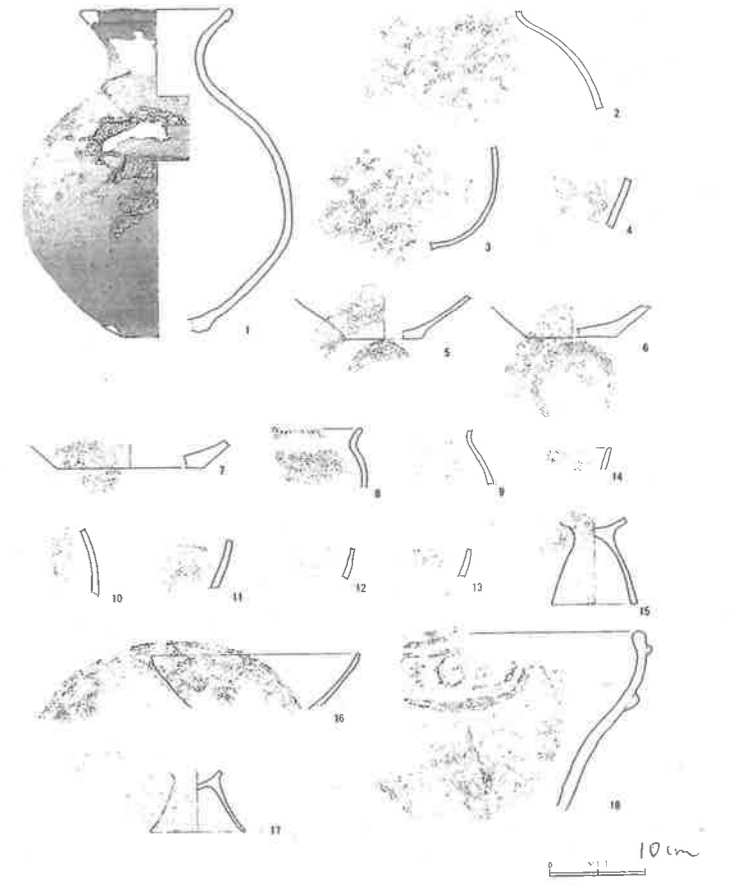
第5号住居跡遺物出土状況



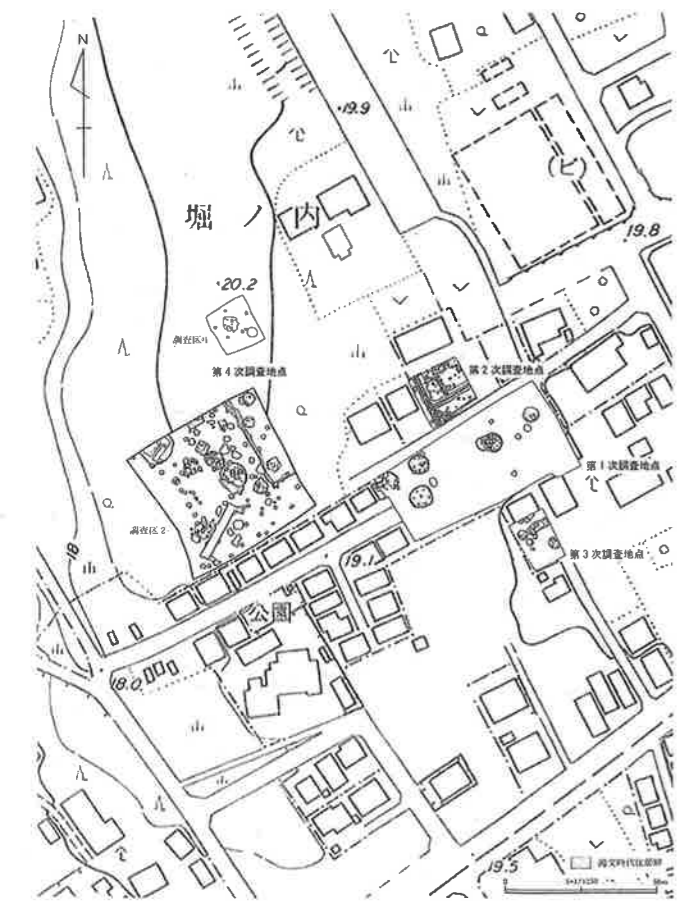
第5号住居跡出土遺物



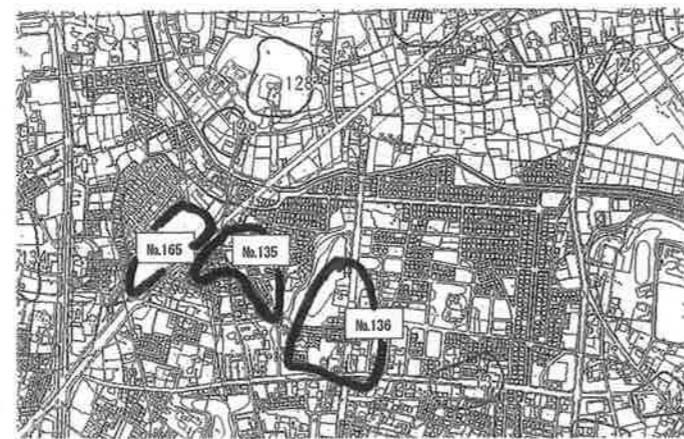
方形周溝墓



方形周溝墓出土遺物

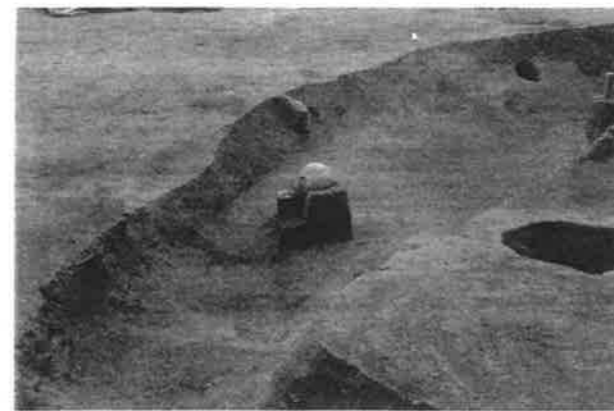


堀ノ内遺跡における縄文時代住居跡の分布



堀ノ内遺跡周辺図

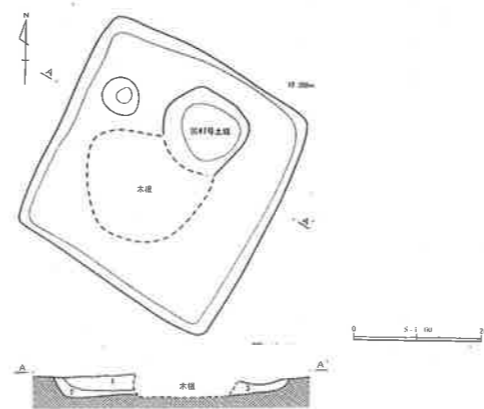
- No. 165 : 天王山遺跡
- No. 135 : ふじ山遺跡
- No. 136 : 堀ノ内遺跡



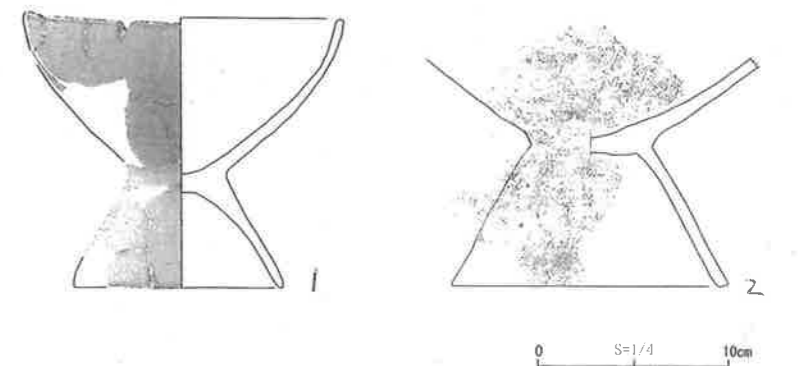
方形周溝墓 遺物出土状況



方形周溝墓 壺形土器底部状況



第4号住居跡



第4号住居跡出土遺物

Ⅲ 宮遺跡の発掘調査

宮遺跡（第5次発掘調査）

調査期間 平成22年7月20日～平成22年8月10日

所在地 桶川市大字上日出谷字宮地内

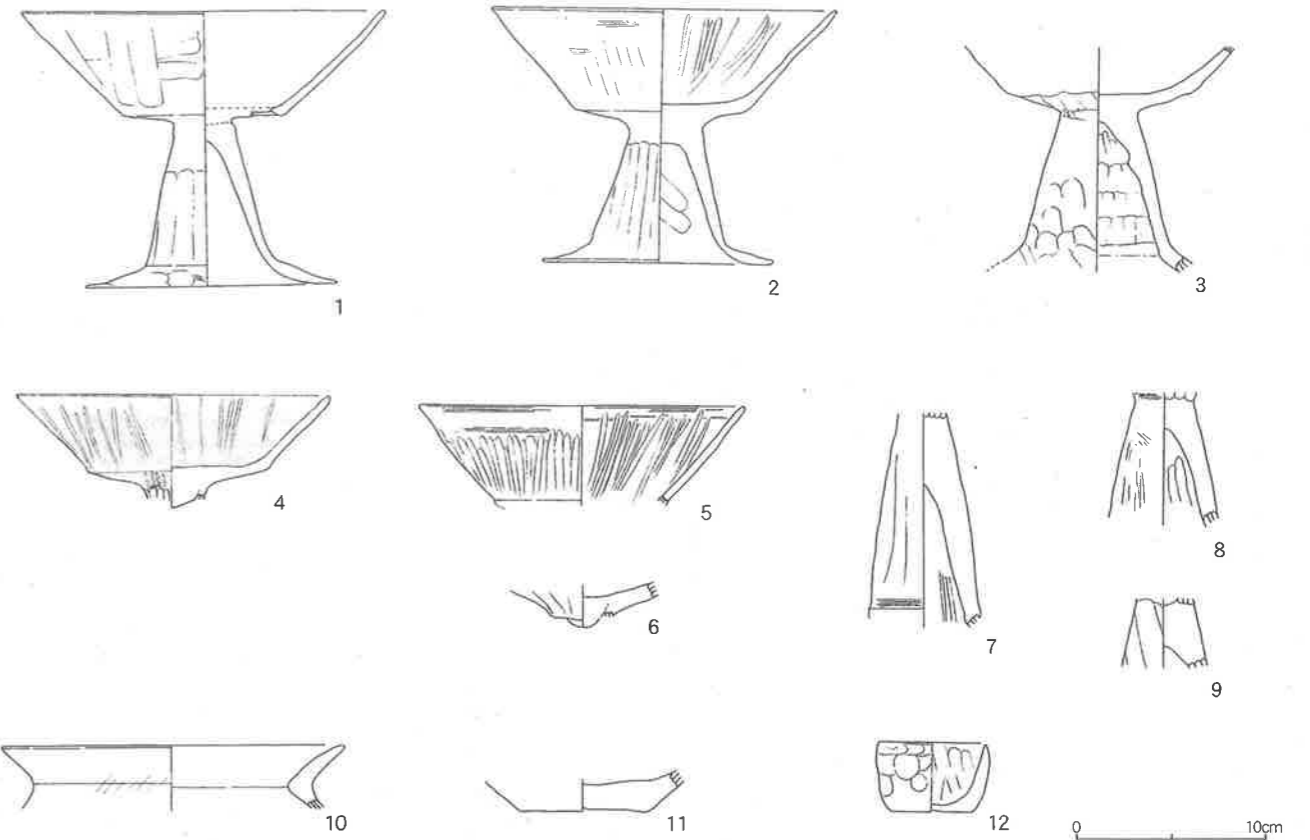
宮遺跡は西側に江川を望む標高20m前後の台地上に存在する。江川との比高差は9m前後を測る。江川の支流が開析した地形は起伏に富み、遺跡が立地する台地から望む谷には、かつて「ドブッタ」と呼ばれた強湿田が広がり、腰まで泥に沈んでしまうほどの排水の悪さが地域の人々を悩ませた。このような谷にせり出す台地の突端部分に氷川神社裏古墳が存在する。

宮遺跡ではこれまで4回の発掘調査が実施され、古墳時代中期の住居跡が18軒、古墳時代後期の住居が1軒確認されている。また同遺跡内に所在する氷川神社裏古墳についても発掘調査が行われている。

氷川神社裏古墳は東西24m、南北26m（周溝を含む）の円墳である。石室は複室構造で内面を切石積で造る。古墳時代後期に江川流域に単独で築造された。古墳からは馬具や刀子などが出土し、市指定文化財に指定されている。

今回の調査は、区画整理の進む住宅街で実施されたものであったが、比較的良好な状態で古墳時代中期の住居跡が1軒発見された。住居跡からは竈跡を主とした土師器が出土した。今回の調査はこれまで宮遺跡で実施されてきた発掘調査の中で最も北に位置するものであり、古墳時代中期を主体とする宮遺跡の集落の広がりを考える上でも、貴重な資料となった。

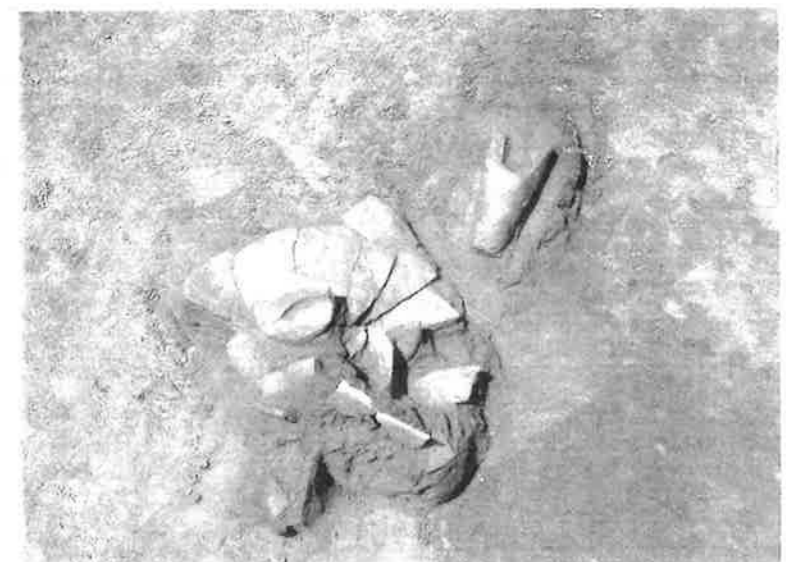
現在、宮遺跡で氷川神社裏古墳の築造と同時期と考えられる住居跡は第2次調査で発見された1軒だけである。宮遺跡を中心とした日出谷地区における古墳時代中期の集落の様相と、その後の集落の展開から、どのように氷川神社裏古墳の成立を支えるだけの背景ができたのか、そして何故、市内でも古墳の一大集約地である川田谷古墳群から離れた場所に単独で古墳が造られたのかを解明することが、今後の課題である。



宮遺跡出土遺物



第1号住居跡全景



第1号住居跡 遺物出土状況



八幡耕地遺跡（第8次発掘調査）

調査期間 平成26年5月13日～平成26年6月2日  
所在地 桶川市大字川田谷字八幡耕地地内

八幡耕地遺跡は、荒川を西側に望む台地上、現在の松原八幡神社付近に所在している。

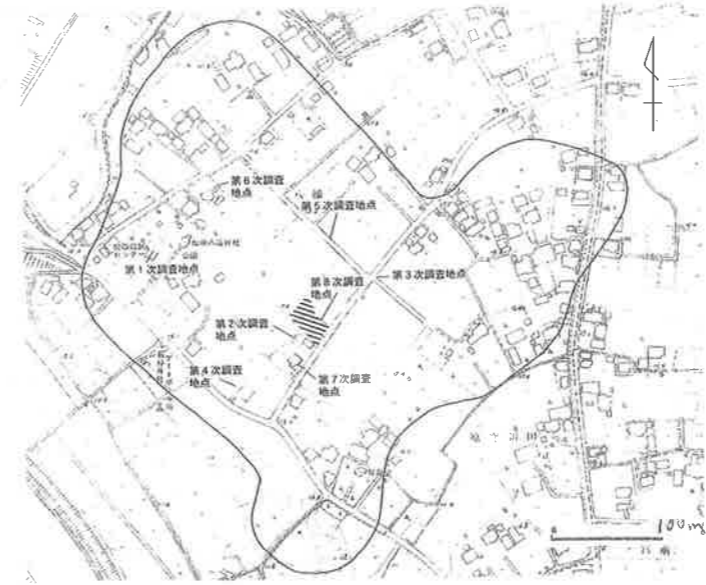
遺跡内には縄文時代から古墳時代までの遺構が存在する。これまでに7回の発掘調査が行われており、今回検出された住居跡と同時期である古墳時代後期の住居跡は39軒発見されている。これは同時期の集落の規模としては市内最大のものである。

川田谷地域、特に荒川流域は、埼玉県内でも古い段階の古墳であり、畿内地域とのつながりを示す出土品（重要文化財）が発見された熊野神社古墳から古墳時代後期の原山古墳群に至るまで、非常に数多くの古墳を持つ地域である。これらの古墳は川田谷古墳群とよばれ、古墳の数は確認されているものだけでも70墓を数える。

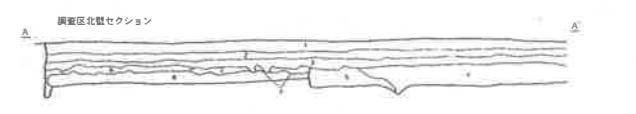
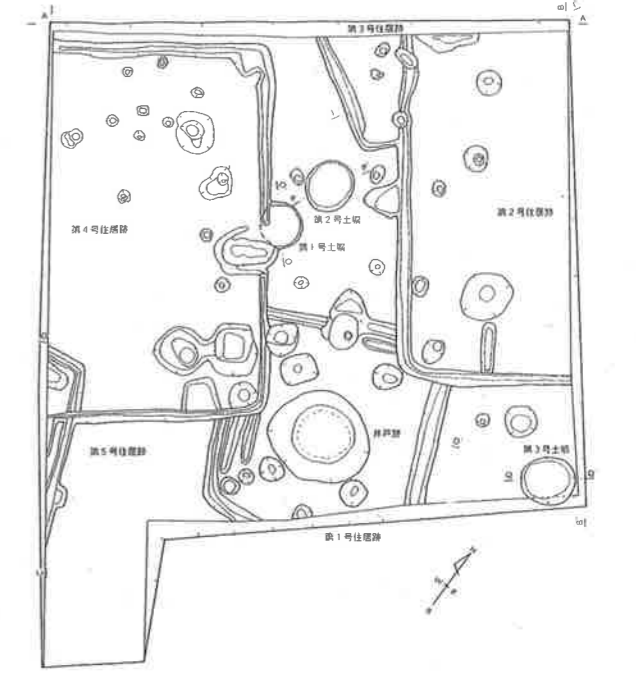
今回の調査では古墳時代後期の住居跡が5軒発見された。住居跡からは土師器をはじめとした遺物が種類・量ともに多く出土した。第1号住居跡、第2号住居跡、第4号住居跡の3軒の住居跡からはカマドが検出された。さらに、出土した土器に胴部が長い鬮があることから、すでにこの時期には当該地域でカマドが使用されていたことが窺える。

また今回の調査では110㎡と狭い範囲ながら古墳時代後期の住居跡5軒が重なりあった状態で発見され、狭い範囲に住居が継続して建てられていたことが判明した。このことは過去に実施された発掘調査とも一致しており、八幡耕地遺跡が住居跡の密集した遺跡であることを示している。上記の様相から、八幡耕地遺跡は古墳時代後期において中核的な機能を担っていた遺跡ではないかと推測される。

今後、当該遺跡を含め、荒川流域の遺跡の発掘調査が進めば、数多くの古墳が所在する川田谷古墳群の成立を支えた生産基盤等の背景が判明してくると思われる。

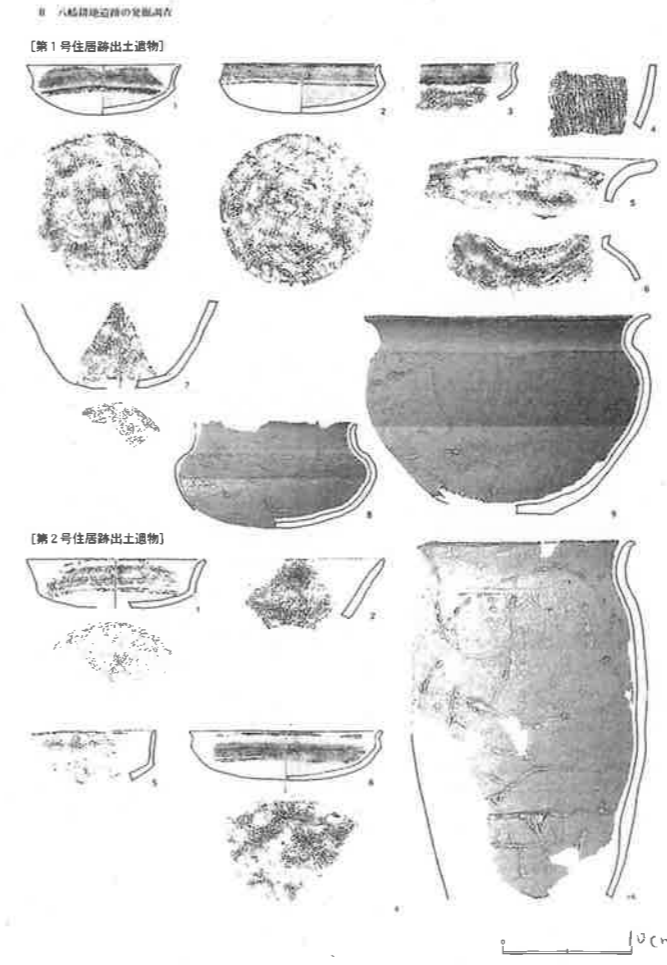


八幡耕地遺跡第8次発掘調査地点

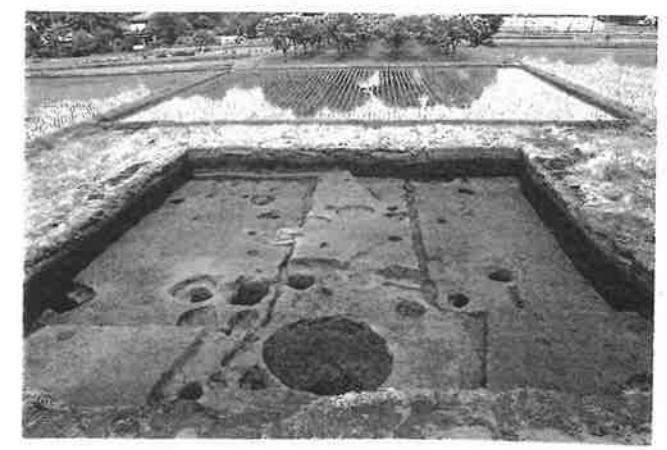


調査区位置セクション  
1 埋没層、中に灰土層あり  
2 埋没層、土質  
3 埋没層、フロンツボクサの多い層、石灰質  
4 埋没層、粘土質、フロンツボクサの多い層、石灰質、穴の多い層  
5 埋没層、ローム状、石灰質、穴の多い層

調査区全体図



第1号住居跡・第2号住居跡出土遺物



調査区全景



第2号住居跡